

2022年 10月 24日  
プレスリリース No.019-22

## 浜松市北区引佐町「久留女木の棚田」において

## 静岡文化芸術大学の引佐耕作隊が1年間育てた稲を収穫します(稲刈り)

静岡文化芸術大学学生グループ「引佐耕作隊(いなさこうさくたい)」は、同大学の有志学生によって構成され、2016年より浜松市北区引佐町「久留女木(くるめき)の棚田」における耕作放棄地を活用し、お米づくりを行ってきました。引佐耕作隊では、お米を栽培するだけでなく、収穫したお米を販売して収益を得ることにより、持続可能な活動になるよう取り組んでいます。

今年度は、9月に栽培中の多くの稲が倒伏するという困難がありましたが、地域の方々に来年度に向けた作業の改善点や、稲の起こし方を教えていただき、今年度も、無事に稲が収穫時期を迎えましたので、稲刈りを実施します。つきましては、報道機関の皆様には、ぜひ当日の取材をお願いいたします。

## 記

名称: 静岡文化芸術大学学生グループ「引佐耕作隊」による稲刈りの実施

日時: 2022年10月29日(土) 9:00~14:00

場所: 浜松市北区引佐町久留女木地区「久留女木の棚田」

参加者: 静岡文化芸術大学の学生10名

内容: 【「久留女木の棚田」とは】

浜松市北区引佐町にある観音山の南西斜面(標高250m付近)に位置しています。総面積は7.7ha、その中に約800枚の田んぼがあると言われ、その美しい景観は「つなぐ棚田遺産(ポスト棚田百選)」や「静岡県景観賞」にも選ばれています。この棚田は、平安時代が起源とも言われ、とくに戦国時代に井伊氏(井伊直虎の祖父)の庇護のもと、開墾が進んだと考えられており、古い歴史と文化を有する棚田です。

しかし、最近の農家の後継者不足から耕作されなくなる棚田が多くなっています。棚田が荒れていると、棚田の美しい景観も損なわれてしまいます。そこで、静岡文化芸術大学の学生たちで「引佐耕作隊」を結成し、2016年度から「久留女木の棚田」で、お米作りに取り組んできました。

そして、今年度も無事にお米の収穫時期を迎えることができました。

## 【引佐耕作隊の活動】

引佐耕作隊は、1~2週間に1度の頻度で田んぼに通い、田起こしから代掻き・田植え・水管理・除草・稲刈り・脱穀といったお米づくりの全工程に学生が主体となって取り組んでいます。また収穫したお米(品種はにこまる)は、パッケージをデザインして商品化し、毎年、本学生協購買や市内の飲食店にて販売しています(今年度収穫予定のお米も販売予定です)。そして販売で得られた利益をまた次年度の活動費に充てることによって、持続可能な活動になるよう、取り組んでいます。

棚田には、水源涵養・景観保全といった「棚田の多面的機能」があると言われています。棚田の恩恵を享受するのは、棚田がある地域だけではなく、都市部の住民も当てはまります(棚田があることによって水を貯え、降雨時都市部の河川に流入する水量が減少する・美しい棚田の景観が人々に癒しを与える等)。そのため引佐耕作隊では、棚田で栽培したお米を都市部で販売することを通して、棚田や「棚田の多面的機能」の重要性を訴え、購入すること・食べることを通して「久留女木の棚田」を応援できる仕組みづくりを目指しています。

## 【今年度の主なスケジュール予定】

5月:代掻き、6月:田植え、7~9月:草刈り、10月:稲刈り、1月:お米の販売

問合せ: 静岡文化芸術大学 文化政策学科 3年 高橋 明日香

電話: 080-2669-5272 E-mail: g2012030@suac.ac.jp

&lt;本リリースに関する問い合わせ&gt;

静岡文化芸術大学 地域連携室

Tel. 053-457-6105 / Fax. 053-457-6123

Email. chiiki@suac.ac.jp

公式Webサイト

